

荒木山通信

2023年12月

第19号

北房文化遺産
保存会

今年も始まった！

荒木山西塚古墳の

第二次発掘調査

11月27日(月)



一月二十五日(土)から第二次の調査が始まりました。初めの二日間は保存会員だけで取り組み、二七日(月)からは一般参加者も発掘に加わりました。今年度は一般から約四〇余名の申し込みがありました。

昨年度の第一次発掘調査では、後円部とその外側にかけて二カ所のトレンチを

設定し実施しました。

古墳の斜面や裾を巡ると考えられる石列(一部)が見つかったり、壺形土器が出たりしました。古墳の正確な規模や築造時期を知る大きな手がかりを得ることができました。

小型丸底壺
古墳築造年代
を知る手掛か
りとなるもの



長頸壺形土器
県内では類例が
ない形態のもの

今年度は、前方部と後円部南側等にトレンチを設定し実施します。どのような発見があるだろうか、分かるだろうか、期待が沸いてきます。

発掘調査に先立って、石列がどのようになっているかを調べるための非破壊調

査(地中レーダー探査)も行われました。

令和5年度の活動

ー8月以降ー

本年度の活動も会員の皆様をはじめ多くの方々のご協力・ご支援を頂きながらつつが無く進めて来ることができました。感謝申し上げます。

8月

○ガイド養成講座(第2回)



12日(土)・北房文化センター
講師 平城元氏、参加30名

○コンソーシアム連絡会議

事業の内容やトレンチ配置計画・スケジュールの報告や参加者・作業等について協議。

9月

○事務局会

役員会での報告や協議事項についての検討。

○役員会

西塚古墳のレーダー探査や発掘調査と参加予定者の調査、見学者用トイレの設置要望書等の協議。

○ワーキンググループ会議

令和4年度の発掘調査の成果についての報告と5年度の事業計画について考古学の専門家から指導助言を頂く。

一〇月

○荒木山東塚・西塚古墳の見学者用トイレの設置要望

北房振興局長へ会長・副会長が要望書を提出する。

10日(木)



○西塚古墳の清掃作業

14日(土)



一二月

○発掘調査の事前打ち合わせ

○西塚古墳の清掃作業

○機材搬入とテントの設営

25日(土)



19日(木)～23日(月)



一九日(木)からの地中レーダー探査に向けて動噴や熊手で柴掻きを行う。
○西塚古墳の電子探査
同志社大学の岸田先生と市教委(新谷係長)・保存会員の手に古墳の石列等を探索。

古墳時代の北房の人口

北房地域では、三世紀末から七世紀末頃まで大小合わせて約二五〇基の古墳が築造されました。

重機など無い、人力の時代です。特に首長墳といつた大型の古墳を造るには大変な労力が必要だったことは容易に想像できます。

そんな古墳時代の北房の人口を考えてみたいと思います。

壬申の乱(六七二年)に勝利した天武天皇は、中央集権体制を推し進めるため、律令制定を命ずる詔を発令しました。その後、文武天皇期の大宝元年(七〇一年)、大宝律令が完成し、国郡里制(後、里は郷になる)が確立します。

吉備は、天武朝期に備前・備中・備後の三国に分割されました。和銅六年(七一三年)には備前国がさらに分割さ

れ、美作国ができたことで、最終的には四国になりました。



古代の全国の郷については『律書残篇』、『和名類聚抄』に出てきます。また、東大寺の僧侶裔然が伝えた人口資料が記された『宋史』の日本国伝にも伝わっています。これらの中では、『和名類聚抄』(略して『和名抄』)が中核になります。

この『和名抄』によれば、備中国の管下には、都宇、窪屋、浅口、小田、後月、下道、賀夜、哲多、そして英賀(阿加)の九郡が置かれていました。また、英賀郡は、中井(奈加都井)、水田(美都多)、皆部(安多)、刑部(於佐加倍)、丹部(多知倍)、林の六郷からなっていました。このうち、中井、水田、皆部の三郷が現在の北房地域にほぼ相当すると考えられています。

奈良時代に入り、古墳がほとんど造られなくなった西暦七二五年の全国総人口を歴史人口学の研究者、鬼頭宏氏が推定しています『人口から読む日本の歴史』(他)。籍帳などから既に研究されていた一郷当たりの

推定良民人口一〇五二人に、『和名抄』に記載されている全国四〇四一郷を乗じます。その積にその他補正等を行うことで、四五一万二千二百人と推定しています。また、七二郷からなる備中国の推定人口を七万九千人としています。

この補正された備中国の数値から一郷当たりの平均人口を求めると、一〇九九人となります。したがって六郷からなる英賀郡の推定人口は六五九四人、中井・水田・皆部の三郷では三二九七人となります。

西暦六七〇〜六八〇年頃の築造とされる大谷一号墳は、推計した七二五年より約五〇年前です。この古墳が築造された頃の人口を仮に約三〇〇〇人としておきます。

次に、北房で最も古い古墳とされる荒木山東塚古墳が築造された三世紀後半の人口を推定してみます。

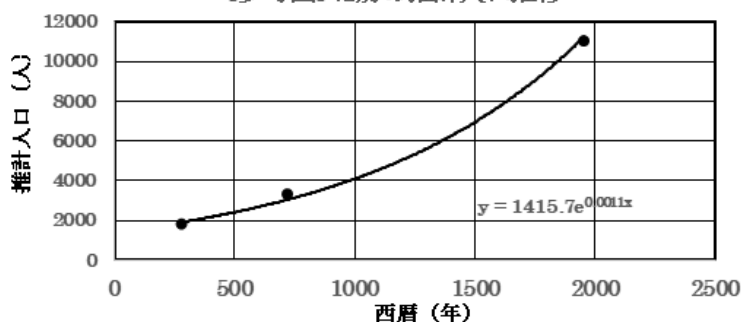
全国の人口推移の定説的曲線によれば、四世紀前後は約二五〇万人となつています(北條芳隆編『考古学講義』。前述の計算結果を基に比例計算すると、北房

の人口は、一八二七人になります。後の英賀郡に相当する地域全体でみると、三六〇〇人くらいでしょうか。ところで、荒木山東塚古墳と大谷一号墳には約四百年の開きがあります。例えば、大谷一号墳が今の時代に造られたとすれば、荒木山東塚古墳は、江戸時代の初期となる程の昔です。そんな二つの古墳が造られた頃の北房の人口は、それぞれ約一八〇〇人と約三〇〇〇人という推定になりました。

北房町時代の昭和三〇年の人口は、一万一〇一二人でした。その後減少し、現在の人口は約四六〇〇人になっています。

今回推定した四世紀前後と七二五年の人口、そして昭和三〇年の人口から求めた、北房の推定人口推移を図示します。得られた回帰曲線式により西暦六七五年の人口を求めると、二九七五人となります。大谷一号墳築造の頃は、約三〇〇〇人としてよさそうです。ただ、この図は三点プロットで、そのうち二点が推定値による回帰曲線ですから、

【参考図】北房の推計人口推移



あくまでも参考程度の図です。

話は変わりますが、日本各地から出土した人骨の分析から、古墳時代の平均寿命は男が三〇・六歳、女が三四・五歳と推定されています。人口ピラミッドは、多産多死社会の典型的な山型だったでしょう。昭和五年の日本の平均寿命は約四五歳、人口ピラミッドは山型、一五歳以下の年少人口

は全体の約三七%でした
(国立社会保障・人口問題
研究所データより)。これ
と比較すると、古墳時代は
平均寿命が一〇歳以上短か
ったわけですから、年少者
が半数近くを占めていた可
能性もあります。

そんなイメージの年齢構
成で、推定人口は五千人に
満たない現在の北房の人口
の四〇〜六五%程度です。
また、当然のことながら、
その約半数は女性です。も
ちろん生死に直結する農作
物の収穫のために、日々働
いていたでしょう。

古墳は実際に造られている
ので、その困難さをあれ
これ想像しても仕方ないの
ですが、当時の地元住民は
古墳築造にどのように関わ
っていたのだろうかと考え
込んでしまいました。

(平城 元)



特別寄稿

北房と同じように勝央町
で古墳の整備や活用に取り
組んでいる「植月寺山古墳
保存会」の赤堀浩一氏から、
寄稿していただきました。

植月寺山古墳保存会の 活動について

赤堀浩一

勝央町には、全長九一・
五mで西日本トップクラス
の前方後方墳「植月寺山古
墳」があります。地元有志
で草刈りなど整備をしてき
ました。昨年、県の測量調
査の結果がまとまったこと
を機に「植月寺山古墳保存
会」を立ち上げました。



【植月寺山古墳】

「植月寺山古墳」の近隣
には、四〇〜六〇mクラス
の前方後方墳が五基あり、
西日本でも希な、前方後方
墳が集中する地域となつて
おります。

保存会としては、北房文
化遺産保存会の活動を参考
にさせていただき、早期の
発掘調査を目指したいと思
っております。また、地元
小学校とも連携して、郷土
の宝として盛り上げていき
たいと思いますので、よろ
しくお願いいたします。

原稿に同封の『うえつき
むら新聞』2023・初夏号
(『うえつきむら活性化proj
ect』実行委員会発行)から一部
抜粋して紹介します。



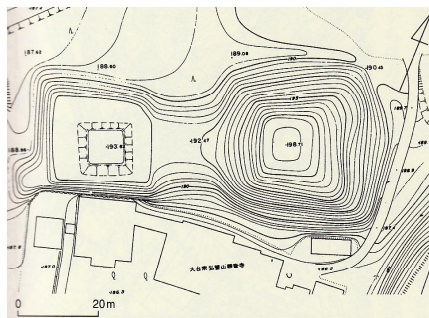
勝央北小6年生が古墳見学
六月六日北小の皆さんが
植月寺山古墳の見学をしま
した。授業の進捗に合わせ
て毎年この時期の恒例とな
っているものです。

子供たちは学校から歩い
て来て最初に観音寺客殿で
間庭田敬住職から話を聞い
た後、お寺の裏山の古墳に
向かいました。

全員が古墳の頂上まで登
り、美作地方最大の大きさ
を実感していました。

(参考)

植月寺山古墳



【植月寺山古墳測量図】(岡山市史)

全長九一・五m、高さ
(前方)五m、(後方)九
mの美作地方で最大の前
方後方墳。前方部と後方

部の高低差が大きく古墳
時代前期でも早い時期の
ものと考えられる。(三
世紀末)勝央町指定の重
要文化財。

西の明日香村点描

大和路はるか

一
西の谷から湧き上がる
あの歓声は他ならぬ
里の首長の魂を
鎮めて祀る石の部屋

二
東の丘に立ち昇る
朝の煙は何あろう
里の首長の亡骸を
収めて祀る陶の棺

三
人は生まれてやがて逝き
里には今日も白い雲
生まれてゆつたり流れ行く
青空遠く流れ行く

過日、戸村彰孝先生から
「西の明日香村の詩を作っ
てみないか」とのお話を戴
き、四苦八苦しながら書い
たのが前掲の作品である。

一番で巨石を組み上げ石室を完成させたときの歓びを、二番で陶棺を焼成する陶人たちの様子を、三番では人と自然の対比により人の命の儚さを詩ってみた。

(久松秀雄)

全国古墳写真展

授賞式に参加して

板東 郁仁



賞を受賞しました！二人の受賞の連絡を聞いた時は喜びと驚きでした。
一月三日に石川県能美市の能美ふるさとミュージアムで開催された授賞式に参加させて頂きました。北陸の古墳を巡る貴重な機会にもなり、本当に感謝しています。授賞式の後、能美市の学芸員の菅原先生にミュージアムの展示と秋常山古墳群を解説して頂きました。

秋常山古墳群が含まれる能美古墳群は国指定史跡で、三世紀から六世紀まで古墳が造られ続け、円墳だけでなく方墳や前方後円墳、前方後

方墳も造られており、とても見応えがあります。

能美古墳群を見学すると、時代の移り変わりを知ることが出来ます。人々の営みが古代からずっとその土地で続いてきたことが分かり、感慨深いです。能美市で古墳が連綿と築かれていることは、北房とも似ているなと思いました。

今年の夏、北房文化遺産保存会の志田さんから『いしかわ百万石文化祭2023全国古墳写真展』のパネル展を頂き、母と写真展に応募しました。

僕の作品は、今年一番お気に入りの『セスナ機から撮った古市古墳群』の写真で、母は『桜が満開の造山古墳』です。そして、僕がジュニア賞、母がユーモア

また、能美古墳群が発見されたのは今から四〇年程前ですが、古墳群が史跡公園として綺麗に整備されており、併設のミュージアムでその出土品などを見ることが出来ます。岡山でも出土品が古墳の近くのミュージアムで見ることが出来ます。

能美古墳群で最大の秋常山一号墳では、当時の葺石は埋没保存されており、市民参加により墳丘の一部に葺石が再現されています。地元の方が古墳の保存事業に参加することで、その地域で古墳がより愛されて未来に引き継がれていく、素晴らしい取り組みだと思います。

荒木山西塚古墳の発掘調査も、考古学の先生方だけでなく、北房文化遺産保存会の方々をはじめ市民参加

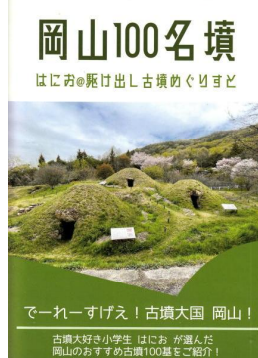


で行うことで、より古墳が愛されていくのだと感じています。僕も、今年度も発掘調査に参加させて頂けることを楽しみにしています。

【書籍の紹介】

『岡山一〇〇名墳』

はにお@駆け出し古墳めぐりすと



古墳大好き小学生はにお(板東郁仁君・中一)は、小学校四年生から六年生にかけて県内外一五〇〇基以上の古墳を巡りました。県内での九〇〇基以上の中から、お薦めの一〇〇基を紹介。

北房では、大谷一号墳、定古墳群、荒木山東塚・西塚古墳、鳥形池奥横穴墓が載っています。

北房図書館にも置いてあります。皆さん、是非ご一読を！

板東君は、北房文化遺産保存会の会員でもあります。

ふるさと点描

「家庭読本 山田方谷先生」

山田方谷を取り上げた、澤田瞳子氏の「孤城春たり」が今月初めまで山陽新聞に連載されていた。ここでは、その方谷に関連した小冊子について紹介したい。

六年前、北房の四小学校在統合され、新たに北房小学校が誕生した。それぞれの学校では、閉校の記念誌が作成された。私は、上水田小学校の歴史を調べるために古い書籍などに当たっていた。その中にこの小冊子があった。「家庭読本 山田方谷先生」である。著作者 山根楊治郎、明治四十四年(一九一)十二月五日発行(定価金九銭、三八頁の手帖サイズのものである。

著作者の山根氏は、明治期の上水田尋常小学校校長である。(明治二七〜三〇年)冊子のはしがきを、方谷先生の子孫にあたる山田準氏(方谷の義孫・二松学舎校長。方谷全集などの著者)



が書いており、また、方谷先生の高弟、三島中洲（二松学舎大学の創始者。東宮侍講・大正天皇が皇太子時の先生）の色紙や方谷先生の歌（鴻巣盛廣作歌・北村泰三作曲）なども載せてある。

山根氏の附言として、「此の本は、方谷先生の多くの事跡の中から、特に小学校児童の為に、心得となるものばかり集めたもので、児童が家庭で読むことを望むのです」とある。

そして、方谷先生の生涯の紹介と合わせ、十三の守るべき徳目を掲げている。

一、母ヲダイジニセヨ。

（母を大事にしなさい。）

二、オトウトヲカハイガレ。

（弟を可愛がりなさい。）

三、アサハ六ジニオキテ、ソノ日ノシゴトニトリカ

カリ、ヒマナトキニハ、ヨミカキノベンキヤウセヨ。（朝は六時に起きて、その日の仕事に取り掛かり、暇な時には読み書きの勉強をなささい。）

四、ヨルハ十ジニネテ、ガクモンヤヨウジノホカハ、ナガオキヲスルナ。（夜は十時に寝て、学問や用事の外は夜更かしをしてはいけない。）

家庭讀本ということ、大人向けのものもある。例えば、

六、ケンヤクシテ、イエモチヲヨクシ、米ヤ錢ナド

学自立志

入 明治辛亥三月

老弟三島毅将題
時於八十二

ムリナ取り立テヲスルナ。（儉約をして、ゆとりのある家計にして、米や金など無理な取り立てをしてはいけない。）とか、

九、バクチ酒モリ遊ビ事ニ錢ヲ使フナ。（ギャンブルや大酒、遊び事に金を遣つてはいけない。）

十二、近所ノ人ト仲ヨク交ワレ。（近所の人と仲良く付き合おう。）など、現代に通じるものもあれば、その時代ならではのものもある。

冊子が発行された明治末期は、新聞連載小説の中で貞一郎という名で登場する三島中洲（毅）を始めとして方谷先生に直接師事していた人たちがまだ生きていた時代である。

方谷先生の威徳を子どもたちにも学ばせようと、方谷先生誕生の地、中井の住人である山根氏の作成した冊子は、小学校の一年生でも読めるようにと徳目などカタカナで書いてある。

（当時は、ひらがなの前にカタカナから習っていた。）当時の人たちが大事にしたいと考えていた徳目だけでなく、地域の人たちが方

谷先生を誇りとしており、その素晴らしさをもっと知ってもらいたいと思っていたことも良く分かるものがある。

（畦田 正博）

荒木山西塚古墳発掘調査

参加者から

古墳に魅せられて

岡山市南区

乙部 憲彦

昨年度、山陽新聞で一般参加者が発掘できるボランティアの情報を見て、荒木山西塚古墳発掘調査に参加する機会を得た。

古代吉備国の歴史に興味を持ち、弥生時代から古墳時代の遺跡や古墳のことを知りたいと思い、岡山県をはじめ西日本の博物館や歴史資料館、有名な古墳などを夫婦で度々訪問してきた。また、金蔵山古墳、造山古墳などの現地説明会や埋蔵文化財センターが実施する講座や講演会に可能な限り参加してきた私たちにとって、この発掘調査は実際の発掘を体験できる貴重な機会となった。

令和五年二月二六日、天候不良により一日のみの参加となったが、生まれて初めて古墳を発掘を体験することができた。トレンチの掘り下げ、ふるい掛けを行い、発掘の基本作業を体験した。最初は、土器片と粘板岩片の違いに苦労し、最後まで盛り土と地山の区別がなかなかつかず、判別に自信が持てなかった。参加していた大学院生たちが自信を持って判別する姿に感心した。

昼食時には、北房英賀公園のクラブハウスで、地域の方が作って下さった心温まる豚汁をいただいた。そこで北房文化遺産保存会の話聞き、地元でなくても希望すれば誰でも入会できると知り、その場で入会の申し込みをした。また、いただいたパンフレットで北房地域に数多くの古墳があり、「西の明日香村」としてまちづくりを行っていることも初めて知った。

その後、その時いただいた北房史跡探索ガイドを参考に四月に北房を歩いてみた。まず北房ふるさとセンターで陶棺の数々や双龍環

頭大刀を見学し、陶棺の保存状態の良さや大刀の見事に驚いた。

そして、大谷一号墳を訪れ、その復元された方墳の美しさに感動し、七世紀後葉この地が畿内勢力と密接な関係があったことを改めて体感した。隣接する大谷二号墳を探したが、それらしいものにたどり着くのに苦労した。

次に定東塚・西塚古墳を見学。この二つの古墳の立地のあまりの近さに、一つの古墳に石室が二つあるのではないかと思ってしまう。そして、定古墳群を見学。定北古墳はすぐに辿りつけたものの、定四・五号墳を探すのは苦労した。

その後、定東塚・西塚古墳の駐車場に車を置き、歴史探訪路「山辺の道」を北上した。中津井の古い町並みの間を抜けて下村一号墳へ。その隣で名称未定の古墳であろう高まりを発見。郡神社では梁の彫り物の精巧さに感嘆し、次に立一・二号墳を見学。隣接する前方後円墳の見事さ、特に一号墳の大きさに驚いた。

三世紀後半築造とされる

荒木山東塚古墳、四世紀の荒木山西塚古墳、それに続く五世紀の立一・二号墳。

この地域を治める豪族の力の大きさを感じ、古墳の権力基盤となつていく谷尻遺跡をはじめとする北房の地の豊かさを痛感した。

立一号・二号墳からの帰り道は、おかやま全県統合型GISの遺跡分布図を参考に小殿御陵古墳・貝原三号墳・土井二号墳と思われる古墳を見学した。そして、改めてこの地域の古墳の多さを痛感した。

最近では、今年の二月、同じ日に西塚古墳発掘調査に参加し、同じ日に保存会に加入した古墳めぐりすとは「岡山一〇〇名墳」を参考に、まだ訪れていない岡山の古墳巡りをしている。現時点で訪れた古墳は五五基と、やつと半分を超えたところだ。

その中で、どうして小学生（当時）の足で、この古墳に到達したのかと思える古墳（矢掛町小林古墳）や一度目の挑戦では古墳の存在が分からず、日を改めて再挑戦しやつと見つけた古墳（瀬戸内市亀ヶ原大塚古墳）、

一度の挑戦では辿り着けず、今後再挑戦する予定の古墳（井原市三光寺裏山古墳）など、小学生の出した本を片手に夫婦で古墳巡りを行い、改めて岡山の古墳の魅力にはまっている。最近、スマホのグーグルマップでGPS機能が使えることを知り、前述の小林古墳はグーグルマップを使ってやつと探し当てることができた。「岡山の一〇〇名墳」によると、まだ「道なき道」を行かなければ到達できない古墳

（前述の三光寺裏山古墳、岡山市北区弥勒堂古墳など）があるので、残りの古墳もグーグルマップを活用して何とか制覇してみたい。

「岡山一〇〇名墳」ははにお君が選んだ岡山県内の一〇〇の古墳について、**墳丘の美しさ、石室の美しさ、到達難度、レア度、オススメ度**の五つの視点をそれぞれ五段階で評価をし、自分の感想や墳丘・石室内の様子をカラー写真で紹介している。これまで岡山県の古墳を取りまとめた図書は、五九年前の岡山文庫と二三年前の近藤義郎先生がまとめた「吉備の古墳（上・下）」

しかなく（恐らく）、県内の特色ある古墳をコンパクトにまとめた「岡山一〇〇名墳」はなかなか優れたガイドブックだと思う。ぜひ一度ご覧いただきたい。

北房文化遺産保存会からは、総会の案内やボランティア養成講座の案内など、様々な情報をいただくが、県南からはなかなか参加できず、実際に発掘する時期

になつて今年度初めての参加となつた。一〇月の非破壊調査の初日に一日、一一月の発掘調査の初日と翌週に二日と多くの日数は参加できていない。この調査で昨年度よく分からなかった地山と盛り土の区別がやつとつくようになった。新しいトレンチを開けると新たな課題が生じ、古墳調査の奥深さを改めて感じた。また、今年度参加して、発掘調査に向けての事前準備の大変さを痛感した。柴搔き、トレンチ設定、道具の搬入など、発掘調査が順調にできるのも地元の保存会の皆さんの献身的な努力があることを知った。地域を盛り上げようとする熱量と歴史好きの熱意を感じた。今後



も足手まといにならないよう、微力ながらお手伝いをしたいと思う。

お待ちしております

荒木山西塚古墳

発掘現場の見学

令和5年度の住民参加の古墳発掘調査が始まりました。今年度は、前方部や昨年度調査の延長部分等を行います。調査期間中は、担当の係が説明等を行います。興味や関心のある方は、ぜひ発掘現場の見学にお越し下さい。

○見学可能時間

午前10時～午後3時

○発掘期間（後半の予定）

二月一六日（金）から三月初めまでの土日。

◎現地説明会

三月二日（土）の午後。

後日、案内の予定。